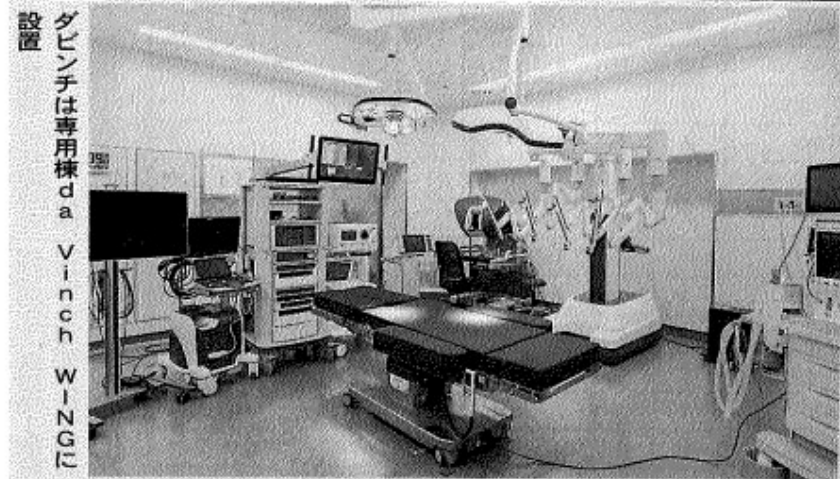


ダビンチ治療開始

経験生かし治療後の性機能温存へ

三樹会泌尿器科



ダビンチは専用棟 da Vinci WING に設置

白石区の三樹会泌尿器科病院（佐藤嘉一理事長・99床）は、手術支援ロボット「ダビンチ」を導入。安全で正確な手術に加え、これまでの技術と経験を生かし、性機能の温存など、術後のQOLの維持・改善に力を入れている。

ダビンチを導入するに当たり、病院隣接地にロボット手術のための別棟を建設。病院から延びる新しい翼をイメージし、

「da Vinci WING」と名付けた。道内の泌尿器科専門病院での導入は初で、対象症例には、根治的前立腺全摘除術、腎部分切除術、根治的腎摘除術、尿管全摘除術、根治的膀胱全摘除術。

手術を担当するのは、石崎淳司ロボット手術／腹腔鏡手術センター長で、これまでに他施設で300例以上のダビンチ手術を行っており、プロ

治療だから仕方ないと思いきらめたり、医師に要望を言い出しにくいといった患者に対しても、性機能の改善などで要望がなければ対応していく考えだ。

同病院では、すでに他施設でがん治療手術を受けた患者に対しても、性機能の改善などで要望があれば対応していく考えだ。

クター資格も有するエキスパートだ。泌尿器科単科に限らなければ、すでに道内では複数の医療機関でダビンチを導入しているが、後発であるがゆえに、「患者に新たに何を提供できるか。そこから考え始めた。その答えが、質の高い手術で尿失禁や勃起能低下などの合併症を減らし、術後のケアをしっかりしていくことと佐藤理事長は話す。

「患者の中には、がん

同病院は、これまでも性機能障害、男性更年期治療などを数多く手がけており、そうした技術の蓄積をダビンチ手術後に生かしているのが特徴だ。

前立腺全摘除術後の尿漏れについては、生じにくい術式を採用。手術を行う医師にとっては技術を要し、さらに手間も増えるが、「がんを切除して終わりではなく、術後

の患者の生活をしっかりとサポートする意識が重要」と話す。

また同手術では性機能の低下が生じてしまうが、可能な患者には海绵体神経温存術を行い、さらにPDE5阻害薬による治療を行う。

こうした治療でも効果がみられない場合や、神経が温存されていない場合には、陰萎海绵体注射も行っている。この治療法は、患者自身が必要な時に自分で陰萎に注射する必要がある。同病院では一般的な細い注射針よりさらに細径の針を採用。患者の苦痛軽減を図っている。

性機能の維持について、そのほか陰圧式勃起補助員も用意しており、患者の状態や要望に合わせて複数の治療法を提供している。